

北京オリンピック・ケイリンで見事銅メダルを獲得した永井



シクリスムエコー No.151 2008年8月号



第29回オリンピック競技大会 2



「北京オリンピックを終えて」 マニエ監督 7



第43回全国都道府県対抗自転車競技大会 8

2008年全日本MTB選手権大会 11



競技大会結果 14

ツール・ド・ラビティビ/ネイションズカップ代表選手団 15

GPリュージュブリランド日本代表選手団 15

北京五輪代表選手団 帰国報告会兼祝賀会 16

連盟の動き 16



この広報誌は、「競輪公益資金」の補助を受けました。

<http://keirin.jp>

<http://ringring-keirin.jp>



第29回オリンピック競技大会

ケイリンで永井が銅メダル!



ケイリン敗者復活戦の永井(先頭)：岐阜新聞社提供

8月9日 ■男子ロードレース 一優勝はスペインのサンチェス

北京オリンピック競技初日となる9日、男子ロードレースが北京市中心部から万里の長城に至る総距離245.4kmのコースで行われ、気温30℃、湿度85%という過酷な気象条件の中、スペインのサミュエル・サンチェスが、最後6選手によるゴールスプリントを制し初優勝を遂げた。オリンピック・ロードレースにおけるスペインの金メダル獲得もこれが初となる。日本から出場した宮澤崇史は、サンチェスから31分35秒遅れて86位完走。別府史之は、コース後半に設定された周回コースを、残り3周でリタイヤという結果だった。

<別府史之のコメント>

タフなレースできつかったです。最初のラップからきつかったんですけどペースが速かったというのもあったので。2周目3周目は走れてたんですけど、ラスト3周のところペースが一気に上がって、そこでちょっと集団の中切れもあって遅れてしまいました。このレースのためにかなり仕上げてきたつもりだったんですけど、結局僕自身の体が弱かったというだけですね。あと暑さにもやられました。1周するごとにボトル3本飲んでましたから。これまで競技をやってて、上って

1リットル以上飲んで、下ってまた1リットル以上飲むという経験をしたことがなかったので、すごく辛かったですね。暑いのが苦手なんで頭に水をかけたりして、何とか対処してたんですけど…。一生懸命サポートしてくれたスタッフの人とか、応援してくれた人たちに申し訳ないという気持ちでいっぱいです。

<宮澤崇史のコメント>

楽しかったですね。コースは思ったより難しかったし、とにかく暑くて参りましたが、今回は自分なりに100%準備ができ、100%力も出し切れたと思います。ただ展開が自分の予想した通りだったので、もっとコースが自分向きだったら、もう少しいい成績が残せたんじゃないかと思います。でも今回は、100%自分の力を出せたことでよしとします。

8月10日 ■女子ロードレース 一優勝はイギリスのニコール・クッカー

北京オリンピック3日目。暑さと湿度で過酷さを増した昨日の男子ロードレースとは違ってかわり、この日行われた女子ロードレースは、降りしきる冷たい雨の中の死闘となった。優勝は、最終的に5人で争われたゴールスプリントを制したイギリスのニコール・クッカーだった。日本からただ1人出場した

沖美穂は最終周上りでトップグループから離され、トップから53秒遅れの31位という成績だった。

<沖美穂のコメント>

我慢して我慢してついていったのですが、最後は、集団が分かれる動きに付ききれなかったですね。でもヨーロッパでずっとやってなかったらこんなに走れなかったと思うので、今日の自分のレースには満足しています。結果は結果として見るしかないのですが、同じレースは一つもないし展開はいつも違うので、今日の結果は実力通りだと思います。力を出し切れたと思うしヨーロッパでやってきたことの証明は出来たと思います。

8月13日 ■ロード個人タイムトライアル

北京オリンピック6日目。ロード競技の最終種目、女子・男子の個人タイムトライアルが、万里の長城周辺の周回コースで行われ、日本からは男子の部に別府史之が出場した。この日の天候は、午前11時半時点で、空は薄曇りで気温27℃、湿度80%。相変わらず湿度は高めだが、ロード競技が行われた3日間の内では一番凌ぎやすい天候だった。

先に行われた女子の部は参加選手25人。コースはロードレースと同じ万里の長城・八達嶺で折り返す周回コース

を1周、距離23.5kmで争われた。1人ずつ2分間隔で次々にスタートする競技は、5番目スタートのイギリスのブリーが出した35分16秒01というタイムが終盤までトップタイムとして残り、これを誰が破るかという展開になった。結局これを破ってオリンピックチャンピオンの座に着いたのは、25人中20番スタートのアメリカのクリスティン・アームストロングだった。タイムは34分51秒72。2位ブリーとのタイム差は24秒29だった。

続いて午後1時30分にスタートした男子は参加選手39人。女子と同じ周回コースを2周、距離47.3kmで争われた。男子の部は、13人ずつ3ヒートに分かれ、各選手のスタート間隔は1分半、ヒート間隔は40分で競技は行われた。第1ヒートの2番目スタートとなった別府史之は、午後1時31分30秒、やや緊張の面持ちでペダルを踏み出した。最初のチェックポイントは上りの頂上、10.8km地点の万里の長城・八達嶺。1番スタート・アルゼンチンのメディチの通過から2分以上経って別府の姿が見えてきた。歯を食いしばり必死の形相で坂を上る別府。赤白のジャパンのウェアは、すでにびしょりと汗で濡れている。4日前のロードレースでは暑さで脱水症状を起こしてのリタイア。不安がよぎる。別府の通過タイムはメディチから後れること48秒。上位進出はこの時点ですでに絶望的だ。2回目のチェックポイントは1周目が終わるフィニッシュライン。別府は先行するメディチからなおも後れ、2分46秒差で通過。そのすぐ後ろにはもう次の選手、そしてスピードがあるその次の選手も姿を見せている。別府はここでも苦しそうな表情を見せながら2周目の上りに向かっていった。結局別府のフィニッシュタイムは1時間11分5秒14。トップタイムから後れること8分53秒。39人中最下位の成績だった。

<別府史之のコメント>

精一杯がんばりました。自分の今の力は最大限出し切りました。ロードレースからの気分転換は上手くできて、今日は集中してベストの状態でも臨んだんですけど…。タイムが出なかったのは僕自身に別の問題があるということだと思います。これからは根本的な部分を一からやり直してまたがんばります。そしてまたオリンピックに戻ってきたいと思います。競技の方は、スウェーデンのラーソ



チームスプリントのスタート練習

ン、アメリカのレイフェマー、スペインのコンタドール、そして、最終走者スイスのカンチェッララがデッドヒートを繰り広げる展開となったが、最後は昨年のTT世界チャンピオン、スイスのファビアン・カンチェッララが、最終チェックポイントでトップだったラーソンを逆転して金メダルを獲得した。フィニッシュタイムは、1時間2分11秒43。平均時速は45.633km/hだった。

8月15日 ■トラック競技初日 日本はチームスプリント6位

北京オリンピック8日目。昨日午後から降り続いた雨が北京にかかる霧を洗い流し、今日は朝から青空が広がる好天となった。肌をなでる風は心地よく、これまでの蒸し風呂状態から一転、今日はどこことなく秋の気配も感じさせるさわやかな一日となった。自転車競技はトラック競技が幕を開け、初日注目のチームスプリントでは、予選でいきなり42秒950の世界最高タイムを叩き出したイギリスが、その後の1回戦決定戦をともに危なげなく制し初のオリンピックチャンピオンの座に着いた。この種目、先のアテネ大会では銀メダルを獲得し2大会連続メダル獲得の期待もかかった日本は、予選は6位のタイムで通過したものの、対戦形式となる1回戦でドイツに敗れ、メダル獲得の権利を失った。日本の最終成績は6位だった。

<長塚智広のコメント>

走る前は体調的にも気持ち的にもかなりいい状態でした。3回目のオリ

ピックなので雰囲気にも飲まれるということもありませんでした。結果的には力が足りなかったの一言ですね。世界一のタイムを狙っていたのに終わってみれば0秒6も違うのですから。準備期間が足りなかったのは事実ですが、これも含めて自分の力だと思っています。1回戦は0秒26の差だったので、もしかしたらとも思ったのですが、自分の走りがダメでした。4回目のオリンピックは…、チャンスがあれば、ですね。

<渡邊一成のコメント>

最初の予選には緊張もなく臨めました。終わった後は、これが今回の日本チームの実力かなあと思いました。予選は長塚さんのトラブルがあったのですが、かえってそれで刺激が入ったので自分には良かったと思います。1回戦はまさに力の差ですね。タイム的には今の自分の力を出せたとは思いますが、もっとレベルアップしないと世界には通用しないと思います。でも、今回緊張もせずある程度自分の走りに手応えもあったので、次のスプリントにそれを生かしたいと思います。

<永井清史のコメント>

走る前もスタートラインについたときも緊張はしませんでした。負けたのはやはり悔しいですね。自分のタイムは、世界選手権の時のタイムは上回れなかったけど、出来としてはまずまずだったと思います。ただ他が凄すぎました。イギリスの42秒台は驚きですね。もっと練習して力をつけないと世界には追いつけないと実感しました。明日のケイリンはノープレッシャーで臨めるので、伏見さんの影に隠れつつ、目立たないようにがんばります。

8月16日 ■ケイリンで永井が銅メダル

北京オリンピック9日目。この日行われたケイリンで、オリンピック初出場の永井清史が銅メダル獲得という快挙を成し遂げた。この種目のオリンピックでのメダル獲得はこれが初めて。日本の自転車競技はアテネオリンピックのチームスプリント銀メダルに続き、2大会連続のメダル獲得となった。永井は、2着までが勝ち上がる最初のレース・1回戦では、イタリアのキアッパのラフプレーにもあって3着となり敗者復活戦に回った。しかしその敗者復活戦で1着。続く準決勝となる2回戦も2着で勝ち上がり、決勝の1～6位決定戦に駒を進めた。そしてその決勝では、残り3周からの早めの仕掛けで主導権を握り、最後は強豪イギリス勢2人に抜かれはしたものの3着でゴール。見事銅メダル獲得となった。優勝したのは今年3月の世界選手権でケイリンとスプリントの2冠に輝いたイギリスのクリス・ホイ。ホイは圧倒的なスピードを武器に、1回戦・2回戦とともに危なげなく逃げ切りの1着で勝ち上がった。そして最後の決定戦でも、永井に先手は取られたものの残り1周からの踏み出しで一気に先頭に立ち、そのままゴールラインを駆け抜けた。ホイは前日のチームスプリントに続き、今大会2つ目の金メダル獲得となった。なお、もう一人日本から出場した伏見俊昭は、1回戦を3着で落とし、挽回を期した次の敗者復活戦でも最後に力尽き4着。日本のエース伏見がアテネの雪辱を期して臨んだ2度目のオリンピックケイリンは、アテネと同じ1回戦・敗者復活戦敗退という結果に終わった。またこの日、これが3度目のオリンピック出場となる飯島誠が男子ポイントレースに出場。途中抜け出した少人数の逃げに乗ってラップポイントを獲得するなど終始積極的な走りをみせ、オリンピックでは過去最高位の8位入賞を果たした。

<永井清史のコメント>

まだ信じられないけど、嬉しいです。今日は伏見さんの影で目立たずがんばるつもりだったので、緊張もせず自分のレースが出来ました。どのレースも先行することだけを考えて、積極的に動いたのが良かったと思います。1回戦はキアッパに絡まれて勝ち上がれなかったのですが、その分敗者復活戦は燃えました。2回戦では、周回中の落車で人数が2人少なくなったの



見事 8 位入賞のポイントレース飯島

は、自分にとってラッキーだったと思います。決勝では、自分には失うものは何もないと思って躊躇無く踏み出したのが、この結果につながったと思います。決勝に乗れただけで嬉しかったのに、メダルまで獲れて本当に感無量です。

<伏見俊昭のコメント>

永井君がメダルを獲ってくれて本当に良かったけど、自分としては調子が良かっただけに残念です。1回戦はスタート順が悪くて動かざるを得ない展開になったんですけど、後ろから来たホイに飛びつけなかったのが敗因です。敗者復活戦は、後ろのトゥルナンを出さないように考えて走ったんですけど行かれちゃいました。ゴール勝負ぐらいまでは粘りたかったですね…。ここに来るまで3ヶ月ぐらい、集中してやって来たのに負けてしまったということは、やっぱりまだ何か足りなかったのだと思います。でもこれで競技生活が終わりというわけではないので、一晩寝て気持ちを切り替えて、今度は日本に帰ってからのレースに備えたいと思います。

<飯島誠のコメント>

8位入賞はオリンピックのベストリザルトなので、結果としては満足しています。でもトップ3とは力の差があります。ちょっとトレーニングで絞るすぎて、レース前は調子はいい方ではありませんでした。序盤は様子見で、中盤以降チャンスがあれば行こうと決めていました。ちょうどタイミング良くいい逃げが出来たので良かったです。それでラップは成功したのですが、そこから凄く速い展開になって、ついて行くので精一杯でした。3度目のオリ

ンピックを走り終わったのですが、満足出来たかというところでは決してそうではなく、思い返すといろいろ後悔もあって複雑な心境です。今後は、まだ現役を続けるか、それともこの経験を後輩に伝えていくか、今の時点では正直迷っています。

ケイリンの決勝レースが終わった後、銅メダル獲得の興奮さめやらぬ永井に駆け寄り、固い抱擁で祝福するマニエ監督の姿があった。永井がプロ入り前に自転車の英才教育を受けたワールドサイクリングセンター時代、当時コーチとして永井の才能を見出し開花させたのはマニエ氏だった。一昨年マニエ氏は、縁あって日本のナショナルディレクターに就任し、選手育成・強化の責任者となったが、永井にはいずれはトラックチームの柱にとの思いで接してきたに違いない。その可能性を信じ、同じ目標に向かってともに歩き続ける監督にとって、今日の喜びはメダルを獲得した本人以上だったかも知れない。

<マニエ監督のコメント>

とても不思議な気分です。私にとってこれは6度目のオリンピックで、初めてのメダル獲得と言うことになります。でもこれはキヨ(永井)のメダルです。このメダルを獲ることがどれだけ難しいことなのか、私はよく知っています。キヨは私のトレーニング方法を良く理解し従ってくれました。まだ改善の余地はありますが、今回の結果に私はとても満足しています。また、日本の競輪選手がオリンピックで初めて決勝進出を果たし、初めてメダル獲得したということは、日本の競輪界にとってもとても素晴らしく意義のあることだと思います。

8月17日 ■男女スプリント初日

北京オリンピック10日目。今日から3日間は男女スプリントを中心に競技が進行する。日本からはこの種目に、男子は渡邊一成、北津留翼の2選手、そして女子は佃咲江が出場した。この日は予選から1/8決勝までが行われたが、女子の佃は予選のタイムが12秒134とふるわず、1回戦となる1/8決勝では今年の世界チャンピオン、イギリスのペンドルトンに、次の敗者復活戦もペラルーシのツィリンスカヤの逃げに歯が立たず、勝ち上がりは果たせなかった。男子の渡邊と北津留は、予選を渡邊が10秒346で11位、北津留が10秒391で14位の成績で通過。しかし、1/16決勝で、渡邊はイタリアのキアッパの逃げを崩せず、北津留もフランスのブルガンに先行を許し、ともに敗者復活戦に望みを託すこととなった。その敗者復活戦。2組目出走の北津留は、マレーシアのアワン、ポーランドのクウィアコウスキーとの対戦。一番外からスタートとなった北津留は、前に2人をおいて追走、踏み出しの機会をうかがう。そして残り1周半となるバックで最初に仕掛けたのは2番手につけていたアワン。鋭い踏み出しで抜け出すと、一気に加速で先行態勢に。北津留もこれに合わせて踏み出すが、スピードの伸びが違う。1着アワン、2着北津留。北津留翼初めてのオリンピック挑戦は、スプリント1/16決勝・敗者復活戦敗退という結果に終わった。一方の渡邊は3組目に出走。対戦するのは中国の張とアメリカのブラッチフォード。インスタートの渡邊は先頭で、後ろ2人の出方をうかがう。残り1周半、2番手につけていた張が、踏み出し渡邊をかわして先頭に出る。しかし渡邊は落ち着いてその後ろを追走、巻き返しのチャンスをうかがう。そして最終バック、後方からのブラッチフォードの追い上げに合わせて渡邊がスパート。張をかわして1着ゴールを果たし、1/8決勝に駒を進めた。渡邊の1/8決勝。これに勝てば渡邊が目標としていたベスト8に進出できる。しかし対戦相手は世界チャンピオン、イギリスのクリス・ホイ。現在世界最速・最強と言われる相手との力の差は歴然としていた。渡邊はホイの先行にただ追走するのみに終わり、再び敗者復活戦に望みを託すこととなった。渡邊の1/8決勝・敗者復活戦。これがベスト8進出に向けて

の最後のチャンス。負ければ勝ち上がり戦から敗退となる。渡邊が戦う相手はフランスのシローとオーストラリアのベイリー。インスタートの渡邊は、後ろにシロー、そしてベイリーを見ながら先行態勢をとる。レースが動いたのは残り1周半のバック。シローが踏みだし渡邊をかわして前をとる。渡邊は前々走の敗者復活戦同様、2番手追走から最後に巻き返しを図るが今度は相手の力が違った。渡邊は今年のワールドカップ総合優勝者・シローの逃げを捕らえられず2着でゴール。渡邊一成、初めてのオリンピックでのスプリント挑戦は、1/8決勝・敗者復活戦敗退という結果に終わった。

<北津留翼のコメント>

何もできずに終わったので悔しいです。力の差がありすぎました。でもオリンピックに向けて自分がやれることはやってきたつもりなので、この結果はしょうがないと思います。

<佃咲江のコメント>

レースはダメでしたが今後へ向けていい刺激になりました。対戦したイギリスのペンドルトンも、アテネの時は全然ダメだったと聞いたので、私も彼女のようにがんばろうと思います。

<渡邊一成のコメント>

ベスト8が目標だったので最後負けたのは悔しいですね。でも今日は自分の力は出し切れたと思います。明後日の9～12位決定戦もしっかり走って帰りたいです。初めてのオリンピックは楽しかったですね。オリンピックを目指すことで、こんなに自分が成長できるということを実感できたので、この経験を次の成長への出発点に出来ればと思います。4年後のロンドンも、もちろん目指します。

8月18日 ■女子ポイントレース

北京オリンピック11日目。日本人選手は前日行われた男女スプリントで、渡邊、北津留、佃が勝ち上がり戦から姿を消したことで、この日行われた女子ポイントレース出場の和田見里美が、決勝種目では最後の日本人選手となった。距離25km・トラック100周回で行われた女子ポイントレース。スタートしてしばらくは単発的なアタックが繰り返され緊迫した展開となったが、残り80周あたりで落ち着き、レースは小康状態となった。その矢先、残り77周の表示を見た後の第2コーナーで数人の選手が落車。その中に和田見の姿があった。和田見はトラックに体を強打したようで倒れたまま動かない。場内

のモニターに、落車時の模様が映し出される。不意のアタックを警戒してスピードを上げようとする集団。そのほぼ中央にいた和田見は、自分もスピードを上げるかそれとも一旦下がるか迷っているように見える。そして次の瞬間、和田見の前輪が前の選手の後輪に払われ落車。これに後続の3人が巻き込まれ、合計4人の選手がトラックに体を投げ出された。このうち2人はレースに復帰したが、和田見と、同じく落車のダメージが大きいアメリカのハマーが規程周回内でレースに復帰できず、棄権となった。その後の診断によると、和田見のケガは左鎖骨骨折だった。レースの方は残り30周となるあたりで現世界チャンピオン、オランダのマリアヌ・フォスが満を持したアタックを成功させ、集団を1周ラップ。ビッグポイントを獲得して優勝を決めた。また、この日行われたもう一つの決勝種目、団体追抜は、前日行われた1回戦で世界新記録を出して勝ち上がったイギリスが、1・2位決定戦でも自己の記録を更新する、驚異の世界新記録3分53秒314を叩き出してオリンピックチャンピオンの座に着いた。

8月19日 ■ホイ3つ目の金メダル獲得

北京オリンピック12日目。トラック競技は今日が最終日。男女スプリントは残る準決勝・決勝と順位決定戦が行われ、男子はイギリスのクリス・ホイが今大会3つめとなる金メダルを獲得。そして女子は、同じくイギリスのヴィクトリア・ペンドルトンが初のオリンピックチャンピオンの座に着いた。イギリスはこの男女スプリントを制したことで、トラック競技全10種目中7種目で金メダル獲得ということになった。

またこの日行われたもう一つの決勝種目・マディソンは、レース序盤でラップを決めたアルゼンチンがそのまま逃げ切って初のオリンピックチャンピオンの座に着いた。なお、この日、男女スプリントの9～12位決定戦が行われ、日本からは男子に渡邊、女子に佃が出場した。結果は両者共に4着と敗れ、最終成績12位が決定した。

8月20日 ■新種目BMX初日

北京オリンピック13日目。今大会から正式種目として採用されたBMXの開催を迎える。競技会場は前日までトラック競技の熱戦が繰り返されていた、老山自転車競技場に隣接するフィールド。世界でも指折りの難しさと評さ

れる全長約400mのコースには、特徴的な高さ8mのスタート台と、ジャンプやコーナリングなどに高度なテクニックを要求する様々な障害が設定されている。参加は21カ国から男子32人、女子16人の合計48選手。日本からは本場アメリカをベースにプロ活動を続ける阪本章史が、ただ1人参加した。

この日は、男女のシーディングランと、男子の1/4決勝が行われた。シーディングランは1人ずつ2回タイムトライアルを行い、良い方のタイムをもとに本選の組合せが決められるというもの。ここで阪本が出したタイムはトップタイムから5秒近く遅い40秒548。結局最下位の成績で1/4決勝に進んだ。第1走。ゲートが開くとともに8人が一斉に、高さ8mのスタート台を駆け下りる。阪本はここで横一列のラインから、僅かに後れたのが見て取れる。結局5位でゴール。続く第2走。スタートはインから5番目。緊張のスタート。阪本はまたもスタート台を下りるまでに後れを取ってしまった。BMXの勝負を左右するスタート。しかし、シーディングランでのタイム差を見れば致し方ないところか。結局、第2走は8着。そして最後の第3走。阪本は第1走と同じく一番アウトからのスタートとなった。結果は前の1・2走と同じくスタートで出遅れて最後尾追走となり、そのまま為す術無くゴール。これが世界との差なのか。日本のBMX第一人者・阪本章史のオリンピック挑戦は、本選最初の1/4決勝敗退という成績で幕を閉じた。

<阪本章史のコメント>

自分は勝負に絡めるほどの実力が

まだないので、緊張はあまりしないうと思っていましたが、やはりオリンピックのプレッシャーは半端ではありませんでした。でも、そんな状況の中で自分が持つ力は、全て発揮できたと思います。悔いはありません。コースはやっぱり世界で一番アブナイと言われるだけあって、走ってて怖さを感じました。それでも自分の力を出せたのは、その恐怖心に勝てたからだと思います。その意味でも今回のオリンピックに関して悔いはありません。

8月22日 ■BMXファイナル

北京オリンピック15日目。昨日の雨はすっかり上がり、今日は朝から雲一つ無い青空の下でのBMX再開となった。競技は昨日雨により順延になった男女それぞれの準決勝と決勝が行われ、女子は今年の世界選手権で2位となったフランスのアンカロリーヌ・ショソン、男子は今年の世界選手権を制したラトビアのマリス・ストロンベルグスが、BMX初のオリンピックチャンピオンの座に着いた。なお、午後のマウンテンバイク女子クロスカントリーは、翌日の午前中に変更となった。

8月23日 ■マウンテンバイク

北京オリンピック16日目。自転車競技の最終種目、男女マウンテンバイク・クロスカントリーが、老山自転車競技施設群内の専用コースで行われ、女子はドイツのサビネ・シュピッツ、男子はフランスのジュリアン・アブサロンが優勝した。アブサロンはアテネ大会に続いて、2大会連続の金メダル獲得となった。日本からは女子の片山梨絵、男子の山本幸平が参加したが、片山は最終

周に入る直前で、規定時間内に周回を終えられず、最終成績は20位(-1ラップ)だった。一方の山本も、5周目を走り終わったところで片山と同じく規程時間内に次の周回に入れず、最終成績は46位(-3ラップ)だった。

<片山梨絵のコメント>

あと1周で完走できたのですごく悔しいです。3周目辺りから一人で走っている状況になって、気持ちだけは切らさないようにがんばったんですけど…。競り合いになって自分がオーバーペースになったあとは、集中が途切れて転倒してしまうことがあるんですが、今日はそれで4回ぐらい転んでしまいました。その辺はやはり練習が足りなかったんだと思います。日本から来てくれた人たちの応援は力になりました。でももっと前で走っていれば、もっと皆さんの応援を力に出来たと思うと残念です。4年後のことは今はまだ考えられませんが、できればもう一度チャレンジしたいですね。

<山本幸平のコメント>

正直厳しかったですね。世界との差はまだあるなということを感じました。フランスでレース活動をするようになって2年経ち、もうちょっとやれるかなと自分では思っていたんですけどまだまだでした。でも今の段階での自分の力は出し切れたと思います。今回感じたことはみんなオリンピックにかける思いがスゴイということと、トレーニングや調整の部分でやっぱり差があるなということですね。でもこれをステップに4年後を見据えて体を作り直し、もっと強くなってもう一度オリンピックを目指すつもりです。

(伴 達朗)

日本航空
空で逢いましょう。



Dream Skyward.

JAL

ご予約・お問い合わせ

www.jal.co.jp

国内線 ☎ 0120-25-5971
(営業時間 6:30~22:00/年中無休)

国際線 ☎ 0120-25-5931
(営業時間 8:00~21:00/年中無休)

第29回札幌競技大会
(2008/8/9-23 中国・北京)

<ロードレース>

男子個人ロードレース(245km)

1	SANCHEZ Samuel	ESP	6:23:49
2	REBELLIN Davide	ITA	6:23:49
3	CANCELLARA Fabian	SUI	6:23:49
86	宮澤 崇史 長野 梅丹本舗		6:55:24
	別府 史之 JPCA スキルスマノ		DNF

女子個人ロードレース(126km)

1	COOKE Nicole	GBR	3:32:24
2	JOHANSSON Emma	SWE	3:32:24
3	GUDERZO Tatiana	ITA	3:32:24
31	沖 美穂 JPCA ワビーズ		3:33:17

男子個人ロードタイムトライアル(47.3km)

1	CANCELLARA Fabian	SUI	1:02:11.43
2	LARSSON Gustav	SWE	1:02:44.79
3	LEIPHEIMER Levi	USA	1:03:21.11
39	別府 史之 JPCA スキルスマノ		1:11:05.14

女子個人ロードタイムトライアル

1	ARMSTRONG Kristin	USA	34:51.72
2	POOLEY Emma	GBR	35:16.01
3	THURIG Karin	SUI	35:50.99

<トラックレース>

男子スプリント

1	HOY Chris	GBR	
2	KENNY Jason	GBR	
3	BOURGAIN Mickael	FRA	
12	渡邊 一成 JPCA JPCU福島		
14	北津留 翼 JPCA JPCU福岡		

男子ケイリン

1	HOY Chris	GBR	
2	EDGAR Ross	GBR	
3	永井 清史 JPCA JPCU岐阜		
21	伏見 俊昭 JPCA JPCU福島		一回戦敗退

男子チームスプリント

1	Great Britain	43.128
2	France	43.651
3	Germany	44.014
6	日本 長塚・渡邊・永井	44.437

男子4km個人追抜競走

1	WIGGING Bradley	GBR	4:16.977
2	ROULSTON Hayden	NZL	4:19.611
3	BURKE Steven	GBR	4:20.947

男子4km団体追抜競走

1	Great Britain	3:53.314
2	Denmark	4:00.040
3	New Zealand	3:57.776

男子ポイントレース(40km)

1	LLANERAS Joan	ESP	60p
2	KLUGE Roger	GER	58p
3	NEWTON Chris	GBR	56p
8	飯島 誠 JPCA ブリヂンストンアンカー		23p

男子マディソン

1	Argentina	8p
2	Spain	7p
3	Russia	6p

女子スプリント

1	PENDLETON Victoria	GBR	
2	MEARES Anna	AUS	
3	GUO Shuang	CHN	

12 佃 咲江 北海道 北海商科大学

女子3km個人追抜競走

1	ROMERO Rebecca	GBR	3:28.321
2	HOUVENAGHEL Wendy	GBR	3:30.395
3	KALITOVSKA Lesya	UKR	3:31.413

女子ポイントレース(25km)

1	VOS Marianne	NED	30p
2	GONZALEZ Yoanka	CUB	18p
3	OLABERRIA Leire	ESP	13p
	和田見里美 鳥取 中京大学		DNF

<BMX>

男子BMX

1	STROMBERGS Maris	LAT	36.19
2	DAY Mike	USA	36.606
3	OBINSON Donny	USA	36.972
	阪本 章史 大阪 Un autho.1/16f		敗退

女子BMX

1	CHAUSSON Anne-Caroline	FRA	35.976
2	le CORGUILLE Laetitia	FRA	38.042
3	KINTNER Jill	USA	38.674

<マウンテンバイク>

女子XC(26.7km)

1	SPITZ Sabine	GER	1:45:11
2	WLOSZCZOWSKA Maja	POL	1:45:52
3	KALENTYEVA Irina	RUS	1:46:28
20	片山 梨絵 神奈川 スパシャライズド		-1lap

男子XC(35.6km)

1	ABSALON Julien	FRA	1:55:59
2	PERAUD Jean-Christophe	FRA	1:57:06
3	SCHURTER Nino	SUI	1:57:52
46	山本 幸平 北海道 ブリヂンストンアンカー		-3laps



Frédéric Magne
Fleck's

MAGNE, Frédéric
National Director, JCF

「北京オリンピックを終えて」

監督：フレデリック・マニエ
(JCFナショナルディレクター)

北京大会についてまず感心したことは、大会運営の素晴らしさです。人々は皆親切で、移動や施設、オリンピック村に関しても申し分ありませんでした。メダルを持ち帰ることが出来たので、印象はさらに良いものになりました。

各種目の感想としては、全般的に最も良い結果を残したのはトラックチームです。チームスプリントは際立った成績ではありませんでしたが、それでも良い結果だったと思います。ケイリンの永井選手は銅メダルを獲得しました。渡邊選手のスプリントも良くやったと思います。運が向かなかったにも関わらず、上位12位に入ることが出来ました。ポイントレースの飯島選手も、8位という結果は素晴らしいと思います。ロードに関しては、残念な結果であったと言わざるを得ません。宮澤選手は全力を尽くし完走しましたが、それでもロードのレベル全般を向上させなければなら

ないと感じました。BMXはオリンピック種目となり初めての大会で、直前にワイルドカードで選手を出場させることが出来ました。残念ながら選手にとっては、世界のトップクラスと自身の差の大きさを痛感させられたことでしょう。MTBに関しては選手にとって非常にハードなレースだったとは思いますが、ロードと同様に、もう少し良い結果を期待していたので残念です。

トラックに関しても、世界のトップクラスとの差はまだ大きいと思います。ケイリンではその差を少し縮めることが出来ましたが、まだまだ差があります。イギリスははるか彼方の存在です。しかしその次のレベルに居るチーム、フランス、オランダ、ドイツチームなどに勝つことは期待できるでしょう。イギリスは別次元の存在です。まずは5本の指に入るチームになることを目指すべきです。

銅メダルを獲得したことは、制度を改

革するために大きな力となる第一歩になると思います。私のやり方や戦術に、効果があることを示すことが出来たと思います。しかし金メダルを獲得するためには、より根本的に制度を改革する必要があります。そのためには指導者を育成すること、若い才能のある選手を発掘すること、そして250mの室内競技場が必要です。そうやって少しずつ改革を進めれば金メダルを獲得することも出来るでしょう。

監督に就任して以来、困難もありましたが、それは私のために仕事をしてくれた人々にとっても、同じことであつたと思います。文化の違いや、コミュニケーションの問題などが原因で、考え方や戦術を理解し合うのが難しい時もありました。しかしそれでも我々は、メダルを獲得することが出来ました。今後力を合わせていくことが出来れば、より良い成果を望むことが出来ると思います。



第43回全国都道府県対抗自転車競技大会

男女とも大阪が総合優勝!

雨の中、大阪チームが引く男子ロード先頭集団

8月24日から26日、新潟県で第43回全国都道府県対抗大会が開催された。この大会は来年の「トキめき新潟国体」に向けたリハーサル大会で、ロードレースは南魚沼市、トラックレースは弥彦村営弥彦競輪場で行われた。

大会初日は、JR六日町駅から程近い「サンライズ南魚沼」前をスタート／ゴールとし、三国川（さぐりがわ）ダムを経由する1周30kmのコースで、雨のなか男女ロードレースが繰り広げられた。当初はしゃくなげ湖の奥まで廻る1周37kmの予定であったが、崖崩れの危険性のため短縮され、男子4周・女子2週のレースはともに大阪チームの勝利で終了した。

翌25・26日は会場を弥彦競輪場に移し、高湿度の中、トラックレース男子7種目・女子2種目が行われた。3日間の総合成績では、大阪チームがトラックでは勝利種目がなかったものの、ロードと団抜2位の得点が効き、男女とも総合優勝を飾った。



女子ロードで独走する豊岡



【競技結果】

第43回全国都道府県対抗自転車競技大会 (2008/8/24-26 新潟・南魚沼/弥彦)

男子ロードレース (120km)

1	涌本 正樹	大阪	マトリックス	2:59:36
2	辻 善光	大阪	マトリックス	2:59:37
3	中尾 佳祐	埼玉	川越工業高	2:59:37
4	永良 大誠	兵庫	—	3:00:04
5	黒枝 士揮	大分	日出暘谷高	3:01:54
6	中村 誠	石川	BSアッカー	3:01:54
7	中村 政嗣	香川	高松工業高	3:01:54
8	向川 尚樹	大阪	マトリックス	3:01:55
9	大塚 潤	静岡	C.viento	3:01:55

10 新井 翔太 埼玉 川越工業高 3:01:55

女子ロードレース (60km)

1	豊岡 英子	大阪	A.TOYOOKA	1:44:44
2	針谷千紗子	栃木	MUUR.com	1:49:50
3	山島 由香	大阪	CBあさひ	1:49:50
4	井上 玲美	東京	チームラテック	1:50:35
5	木村 亜美	香川	石田高校	1:50:52
6	星川恵里奈	香川	笠田高校	1:50:52
7	池部 真知	大分	別府商業高	1:50:52
8	武田 和佳	埼玉	川越工業高	1:50:53
9	重兼みゆき	愛媛	—	1:50:54
10	上原 彩菜	大分	別府商業高	1:52:13

男子チームスプリント優勝の大分



少年男子 1kmTT
優勝の魚屋



成年男子 1kmTT 優勝の稲毛



男子団体追抜優勝の京都



男子スプリント1位窓場(左)、2位石口



女子 500mTT 優勝の前田



女子ポイントレース、先頭が勝者の石井



少年男子ポイントレース、1位丹羽(左)と2位新井



成年男子ポイントレース(左から)1位普久原、2位圓谷、4位糸賀、3位西山

男子スプリント

- 1 窓場千加頼 京都 向陽高校
- 2 石口 慶多 兵庫 立命館大学
- 3 近藤 寛央 茨城 スパ-Kアスリートホ
- 4 橋本 凌甫 東京 日大豊山高校
- 5 丸山 昌茂 新潟 新潟車連
- 6 湯原 正行 長野 しあわせ

成年男子1kmタイムトライアル

- 1 稲毛 健太 和歌山 ー 1:08.766
- 2 小峰 烈 長野 メアス 1:09.495
- 3 駒井 大輔 茨城 スパ-K 1:09.756
- 4 矢野 賢児 高知 中四国競技会 1:10.041
- 5 岩本 晋也 鳥取 倉吉西高校 1:11.380
- 6 元砂 海人 大阪 環太平洋大 1:14.510

少年男子1kmタイムトライアル

- 1 魚屋 周成 大分 日出暘谷高 1:07.908
- 2 末木 浩二 山梨 甲府工業高 1:08.860
- 3 小池 悠太 埼玉 小松原高校 1:09.499
- 4 和田真久留 神奈川 横浜桜陽高 1:09.574
- 5 浜地 一徳 京都 北桑田高校 1:10.698
- 6 池野 健太 兵庫 三田学園高 1:10.850

成年男子ポイントレース (30km)

- 1 普久原 奨 沖縄 ブリヂストン 45p
- 2 圓谷 崇 新潟 吉田高校教 44p
- 3 西山 知宏 福井 羽水高校 38p
- 4 糸賀 賢司 福島 岩瀬農業高校 15p
- 5 辻 善光 大阪 マトリックス 8p
- 6 山田 哲治 高知 宇治電化工業 6p

少年男子ポイントレース (24km)

- 1 丹羽 泰雄 岐阜 岐南工業高校 62p
- 2 新井 翔太 埼玉 川越工業高校 43p
- 3 谷 龍馬 香川 高松芸芸高校 14p
- 4 雨宮 正樹 山梨 石和高校 10p
- 5 黒枝 士揮 大分 日出暘谷高校 8p
- 6 多武 論 熊本 秀岳館高校 6p

男子チームスプリント

- 1 大分 後藤・利根・魚屋 1:19.549
- 2 長野 湯原・小峰・柿澤 1:20.178
- 3 埼玉 馬場・小池・新井 1:20.529
- 4 兵庫 石口・西尾・池野 1:20.568
- 5 三重 勝谷・伊藤・松本 1:20.955
- 6 山梨 末木・沼田・雨宮 1:21.050

男子団体追抜競走

- 1 京都 海老瀬・三河井・浜地 4:34.854
- 2 大阪 向川・辻・桶本・元砂 4:36.354
- 3 岐阜 吉田・岩瀬・丹羽・森 4:40.626
- 4 神奈川 和田・森崎・出澤・山崎 4:44.723
- 5 新潟 圓谷・池浦・大崎・小黒 4:44.853
- 6 香川 中村・谷・細川・尾崎 4:45.883

男子総合成績

- 1 大阪 44p 2 大分 40p 3 埼玉 38p

女子500mタイムトライアル

- 1 前田佳代乃 兵庫 西宮高校 37.836
- 2 石井 寛子 茨城 スパ-K 38.440
- 3 篠崎 新純 千葉 セオサイクル 38.729
- 4 松本 世良 鳥取 倉吉東高校 39.068
- 5 和地 恵美 茨城 スパ-K 39.343
- 6 小島 蓉子 千葉 千葉経済高 39.670

女子ポイントレース (16km)

- 1 石井 寛子 茨城 スパ-Kアスリートホ 23p
- 2 針谷千紗子 栃木 MUUR.com 15p
- 3 豊岡 英子 大阪 A.TOYOOKA 14p
- 4 上原 彩菜 大分 別府商業高校 11p
- 5 木村 亜美 香川 石田高校 6p
- 6 井上 玲美 東京 チームラテック 5p

女子総合成績

- 1 大阪 20p 2 茨城 19p 3 栃木 14p



DHI 男子エリート1位の安達

2008年
全日本MTB選手権大会
XCは男女とも五輪代表選手が勝利!



DHI 女子エリート1位の末政

7月19～21日、秋田県仙北市たざわ湖スキー場において、第21回全日本マウンテンバイク選手権大会(XCO/DHI)が開催された。

ダウンヒルのエリート男子ではTeam IKUZAWAが1・2位を締め、また女子では末政が2位以下を10秒近く引き離し、ナショナルチャンピオンとなった。

またクロスカントリーでは、8月に控えた北京オリンピック代表の山本幸平と片山梨絵の2選手が出場し、それぞれ勝利を手にした。

【競技結果】

2008年全日本MTB選手権大会
(2008/7/19-21 秋田・田沢湖)

DHI男子エリート

- 1 安達 靖 愛知 Ikuzawa 2:04.107
- 2 向原 健司 大阪 Ikuzawa 2:05.414
- 3 井出川直樹 埼玉 IronHorse 2:07.486
- 4 内嶋 亮 東京 A&F 2:07.636
- 5 永田 隼也 神奈川 IronHorse 2:09.513
- 6 柴田 幸治 神奈川 A&F 2:10.939
- 7 栗瀬 裕太 大阪 MX 2:13.395
- 8 金子 真吾 長野 Transision 2:13.842
- 9 和田 良平 神奈川 Ringoroad 2:13.917
- 10 大島 礼治 兵庫 RAGE69 2:15.315

DHI女子エリート

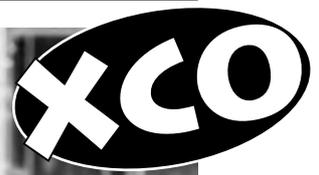
- 1 末政 実緒 兵庫 MS 2:26.909
- 2 飯塚 朋子 東京 UNIVEGA 2:36.380
- 3 中川ヒロカ 東京 AKI Fact. 2:43.120
- 4 池田 恭子 東京 Fiftyone8 2:43.907



DHI 男子ジュニア1位の浅野



DHI 男子マスター1位の三山



XCO 男子エリートのスタート



XCO 男子エリート、山本の単独ゴール



XCO 男子エリート 1位の山本



XCO 女子エリート 1位の片山 XCO 女子エリート、片山の単独ゴール



XCO 男子 U23、1位の小野寺



XCO 男子 U23のスタート



XCO 男子マスター 1位の船岡



XCO 男子ジュニア、201が1位の合田

- 5 服部 良子 神奈川 風魔横浜 2:44.459
- 6 富田 敬子 奈良 Panetration 2:51.647
- 7 大西 雅美 兵庫 YRS 2:52.675
- 8 清水 友香 神奈川 重力技研 3:00.238
- 9 篠原美智恵 神奈川 姉マレ翔南 3:09.457
- 10 西本 奈保 埼玉 WBS 3:18.567

DHI男子ジュニア

- 1 浅野 善亮 愛知 Transition 2:14.196
- 2 黒沢 大介 東京 Transition 2:24.347
- 3 九島 賛汰 神奈川 重力技研 2:24.900
- 4 湯本 大行 神奈川 YOU CAN 2:25.974
- 5 門脇 佑仁 新潟 ARIGER 2:26.946

DHI男子マスター

- 1 三山 孝幸 石川 FRS 2:21.349
- 2 山崎 勉 栃木 Charge 2:23.593
- 3 松田 敦司 神奈川 MARSH 2:24.690
- 4 有村 俊彦 神奈川 重力技研 2:26.161
- 5 宮本 光司 千葉 FREX 2:27.018
- 6 関 誠利 宮城 SEKI 2:27.989
- 7 鎌田 勝 大阪 一条AV 2:28.004
- 8 小川信一郎 新潟 D+Trash 2:28.673
- 9 入江 大介 京都 Think 2:29.303
- 10 平山 裕章 福岡 2:29.408

XCO男子リト (36.6km)

- 1 山本 幸平 長野 BS7カン 1:57:09.54

- 2 辻浦 圭一 長野 BS7カン 2:00:51.40
- 3 千田 尚孝 愛知 KHS 2:02:74.39
- 4 山本 和弘 東京 YouCan 2:02:47.87
- 5 門田 基志 愛媛 GIANT 2:05:36.45
- 6 藤本弥之助 山口 コテック 2:06:03.39
- 7 山口 孝徳 長野 Subaru 2:07:53.17
- 8 小笠原崇裕 長野 OGA 2:09:50.75
- 9 斉藤 亮 長野 コテック 2:10:26.16
- 10 大江 良憲 山形 ホシ/846 2:11:14.15

XCO女子リト (24.4km)

- 1 片山 梨絵 神奈川 Specialized 1:35:35.17
- 2 中込由香里 長野 SY-Nak 1:37:20.32
- 3 田近 郁美 岐阜 GodHill 1:41:47.89
- 4 矢沢みつき 山梨 SY-Nak 1:43:58.26
- 5 山本 佳苗 岡山 BMC 1:44:32.82
- 6 深井 薫 大阪 コテック 1:47:47.05
- 7 重兼みゆき 愛媛 焼鳥山鳥 1:50:40.59
- 8 西森 美子 愛媛 焼鳥山鳥 -1lap
- 9 飯塚 朋子 東京 -1lap
- 10 山本 萌 北海道 ダンガリー -1lap

XCO男子U23 (24.4km)

- 1 小野寺 健 京都 Subaru 1:16:08.84
- 2 竹之内 悠 京都 TREK 1:18:49.70
- 3 平野 星矢 新潟 アウトドア校 1:23:04.81
- 4 日野林昂志郎 愛媛 BSC 1:25:16.82

- 5 伊澤 優大 滋賀 BeeClub 1:26:18.61
- 6 野田 拓司 佐賀 シライシ 1:30:36.44
- 7 鈴木 禄徳 千葉 学習院大 1:33:10.54
- 8 井本 京吾 熊本 Pro Ride 1:33:42.01
- 9 水谷 祐太 広島 広島大学 1:36:57.56
- 10 霜山 誠一 福島 -1lap

XCO男子ジュニア (24.4km)

- 1 合田 啓祐 香川 クルーズ 1:25:28.62
- 2 中山 和也 長野 スコア R. 1:30:36.96
- 3 西岡 亮祐 愛媛 BSC 1:31:17.57
- 4 山本 兆 北海道 ダンガリー 1:39:11.81
- 5 大林 真尋 熊本 八代農高 1:44:43.98
- 6 寺本 雄策 熊本 八代農高 -1lap
- 7 多治見智高 東京 -2laps

XCO男子マスター (24.4km)

- 1 船岡 洋 兵庫 Testach 1:26:13.31
- 2 合田 正之 埼玉 3UP 1:27:28.04
- 3 羽山 幸男 栃木 Tea&Shu 1:28:20.77
- 4 山本 朋貴 大阪 スターター R. 1:28:57.97
- 5 北島 篤志 東京 c-kiRin 1:29:38.42
- 6 赤塚 剛司 三重 Mt,Hase 1:29:49.76
- 7 入江 克典 大阪 シバリアン 1:31:22.32
- 8 竹田 佳行 埼玉 kei's pwr 1:32:15.35
- 9 代田 和明 千葉 WingPaw 1:32:20.47
- 10 毛利 元 愛知 Onw on 1:32:41.95

競技大会 結果

大会名、チーム名等については略して記載

2008年ジュニア世界選手権大会 (2008/7/12-20 南アフリカ・ケープタウン)

男子スプリント

1	LAFARGUE Quentin	FRA	
2	CONORD Charlie	FRA	
3	JOLLET Thierry	FRA	
11	深谷 知広	愛知	競輪学校
14	雨谷 一樹	栃木	競輪学校
18	古庄 豊全	熊本	日本大学

男子1kmタイムトライアル

1	LAFARGUE Quentin	FRA	1:03.860
2	PALMER Thomas	AUS	1:04.829
3	LAW Scott	AUS	1:05.486
17	佐々木 龍	神奈川	横浜高 1:10.545
18	高橋 翔太	岐阜	日本大 1:12.243

男子ケイリン

1	CONORD Charlie	FRA	
2	BRETAS Sotirios	GRE	
3	FELLOWS Paul	AUS	
	雨谷 一樹	栃木	競輪学校 7-12F.DSQ
	深谷 知広	愛知	競輪学校 1回戦敗退

男子3km個人追抜競走

1	PHINNEY Taylor	USA	3:23.759
2	DENNIS Rohan	AUS	3:27.422
3	CHRISTIE Jason	NZL	3:29.987
24	佐々木 龍	神奈川	横浜高 3:38.137
33	高橋 翔太	岐阜	日本大 3:45.762

男子スクラッチ (10km)

1	VINGERLING Michael	NED	
2	LINARES ZAMBRANO Carlos Daniel	VEN	
3	CASELLES Alexander Emanuel	ARG	
24	野口 正則	奈良	榛生昇陽高校

男子ポイントレース (25km)

1	VAN DER SANDE Tosh	BEL	49p
2	OLAVARRIA Cristobal	CHI	46p
3	DURBRIDGE Luke	AUS	45p
14	元砂 勇雪	奈良	榛生昇陽高校 17p

男子ムシム

1	DAVISON Luke	AUS	
2	DE PAUW Moreno	BEL	
3	DOMENE REYES Ramon	ESP	
13	近藤 龍徳	岐阜	岐阜第一高校

男子マディソン (30km)

1	オーストラリア	19p
2	ベルギー	15p
3	スイス	11p
	日本 元砂・野口	DNF

男子チームスプリント

1	フランス	46.600
2	オーストラリア	47.261
3	ポーランド	48.041

7 日本 雨谷・深谷・古庄 48.717

男子4km団体追抜競走

1	オーストラリア	4:17.933
2	ロシア	4:20.024
3	ニュージーランド	4:24.290
13	日本 元砂・野口・佐々木・高橋	4:36.259

男子個人タイムトライアルロード (26.8km)

1	Michal KWIATKOWSKI	POL	36:21.210
2	Jakob STEIGMILLER	GER	36:26.540
3	Taylor PHINNEY	USA	36:29.150
47	佐々木 龍	神奈川	横浜高 40:46.900
50	高橋 翔太	岐阜	日本大 41:06.700

男子ロードレース (136.0km)

1	LE BON Johan	FRA	3:20:52
2	CATTANEO Mattia	ITA	3:20:54
3	LANDER Sebastian	DEN	3:20:55
46	野口 正則	奈良	榛生昇陽 3:21:12
93	元砂 勇雪	奈良	榛生昇陽 3:31:05
	佐々木 龍	神奈川	横浜高 DNF

女子500mタイムトライアル

1	VOGEL Kristina	GER	35.905
2	BARANOVA Victoria	RUS	36.298
3	MONTAUBAN Olivia	FRA	36.446
13	前田佳代乃	兵庫	西宮高校 39.059
16	近藤 美子	愛知	鹿屋体大 40.348

女子スプリント

1	VOGEL Kristina	GER	
2	EDMONDSON Annette	AUS	
3	BARANOVA Victoria	RUS	
17	近藤 美子	愛知	鹿屋体育大学
18	前田佳代乃	兵庫	県立西宮高校

女子ケイリン

1	VOGEL Kristina	GER	
2	MONTAUBAN Olivia	FRA	
3	BALZAN Giada	ITA	
	近藤 美子	愛知	鹿屋体育大学
	前田佳代乃	兵庫	西宮高校

女子チームスプリント

1	フランス	36.119
2	ポーランド	36.527
3	ロシア	36.782
5	日本 近藤・前田	38.933

第7回全日本実業団サイクルロードレースin石川 (2008/7/20 福島・石川)

BR-1 (102.2km)

1	狩野 智也	JPCA シムレーシング	2:41:38
2	廣瀬 佳正	JPCA シムレーシング	2:41:39
3	野寺 秀徳	JPCA シムレーシング	2:41:49
4	品川 真寛	京都 愛三工業	2:41:50
5	大塚 潤	静岡 C.viento	2:41:50
6	佐野 淳哉	埼玉 NIPPO	2:41:50
7	柿沼 章	JPCA BS アンカー	2:41:51
8	小嶋 洋介	京都 DarkBlue	2:41:52
9	鈴木 真理	JPCA シムレーシング	2:42:13
10	三船 雅彦	JPCA マトリックス	2:42:19

女子 (47.8km)

1	針谷千紗子	栃木 muur-king	1:32:16
2	井上 玲美	東京 日野自動車	1:32:21
3	西塚 優美	埼玉 Squadra Corsa	1:32:23
4	智野 真央	東京 muur-king	1:36:37
5	湯坐 香子	福島 東白川農高	1:37:04
6	佐藤紗矢香	北海道 bicinoko	1:39:47

ジュニア (61.4km)

1	佐藤 裕輝	学校法人石川高校	1:47:41
2	猪狩 昌悟	平工業高校	1:47:45
3	安達 康将	平工業高校	1:47:45
4	三上 悠平	学校法人石川高校	1:47:46
5	鈴木 啓祐	学校法人石川高校	1:47:46
6	小黒 祐也	新潟県立吉田高校	1:47:46
7	大久保侑弥	東白川農商高校	1:47:47
8	黒澤 洋徳	平工業高校	1:47:47
9	假谷 岳	都立練馬工業高校	1:47:53
10	安田 茂樹	岩瀬農業高校	1:47:54

第5回全日本実業団サイクルロードレースin小川 (2008/7/27 長野・小川)

BR-1 (76.7km)

1	佐野 淳哉	埼玉 NIPPO	2:38:36
2	野寺 秀徳	JPCA シムレーシング	2:38:45
3	柿沼 章	JPCA BS アンカー	2:39:22
4	品川 真寛	京都 愛三工業	2:39:44
5	永良 大誠	兵庫 グランテンプル	2:40:03
6	狩野 智也	JPCA シムレーシング	2:40:15
7	下林 伸行	兵庫 クラブシルベスト	2:41:04
8	小嶋 洋介	京都 DarkBlue	2:41:41
9	細川 倫央	東京 NIPPO	2:41:49
10	金子 友也	東京 キャノンボール	2:42:22

女子

1	山島 由香	大阪 SB あさひ	1:11:14
2	井上 玲美	東京 日野自動車	1:14:33
3	橋本みどり	東京 なるしまF.	1:15:29
4	坂田 美紀	兵庫 -	1:19:59
5	平松 真子	愛知 -	1:22:35
6	高島真希子	東京 チームオーベスト	1:22:56

平成20年度全国高等学校総合体育大会 (2008/8/2-5 埼玉・さいたま/秩父)

スプリント

1	等々力久就	長野 岡谷工業高校	
2	箱田 優樹	青森 青森商業高校	
3	伊藤 裕貴	三重 朝明高校	
4	橋本 凌甫	東京 日本大学豊山高校	
5	馬場 和広	埼玉 川越工業高校	
6	魚屋 周成	大分 日出暘谷高校	

1kmタイムトライアル

1	和田真久留	神奈川 横浜桜陽	1:09.370
2	小池 悠太	埼玉 小松原高	1:09.594
3	島添 卓也	福岡 祐誠高	1:09.624
4	重末 祥治	岡山 岡山工高	1:09.834
5	須永 勝太	福島 白河実高	1:09.902
6	瀬口 響	宮崎 都城工高	1:10.346

ケイリン

1	野口 正則	奈良 榛生昇陽高校	
2	岩瀬 拓真	岐阜 岐南工業高校	
3	近藤 龍徳	岐阜 岐阜第一高校	
4	飯塚 直人	佐賀 龍谷高校	
5	浜地 一徳	京都 北桑田高校	
6	小原 周祐	高知 高知東工業高校	

3km個人追抜競走

1	佐々木 龍	神奈川 横浜高校	3:33.650
2	大中 巧基	京都 北桑田高	3:34.652
3	吉田 茂生	岐阜 岐南工高	3:34.498
4	新山 将史	青森 八戸工高	3:37.062
5	高宮 正嗣	北海道 北海高校	3:40.871
6	猪狩 昌悟	福島 平工業高	3:41.366

4km速度競走

- 1 元砂 勇雪 奈良 榛生昇陽高校
- 2 逢坂 弘紀 青森 山田高校
- 3 丸山 雄太 山梨 甲府工業高校
- 4 染矢 裕太 大分 別府商業高校
- 5 出澤 拓也 神奈川 横浜高校
- 6 渡邊 浩幸 岐阜 岐南工業高校

スクラッチ (8km)

- 1 雨宮 正樹 山梨 石和高校
- 2 関根 寛人 埼玉 小松原高校
- 3 伊波 直人 沖縄 北中城高校
- 4 岸沢 拓也 埼玉 鳩山高校
- 5 山本 慎一 奈良 榛生昇陽高校
- 6 谷本 健太 福井 春江工業高校

ポイントレース (24km)

- 1 新井 翔太 埼玉 川越工業高校 18p
- 2 安原 大貴 奈良 榛生昇陽高校 10p
- 3 猪瀬 昇太 茨城 取手第一高校 10p
- 4 小黒 祐也 新潟 吉田高校 10p
- 5 西田 大志 福岡 祐誠高校 9p
- 6 丹羽 泰雄 岐阜 岐南工業高校 9p

チームスプリント

- 1 八戸工高 坂本・新山・木村 1:40.073
- 2 東北高校 鈴木・水野・保科 1:41.367
- 3 朝明高校 松岡・伊藤・松本 1:40.893
- 4 白河実高 須永・相笠・渡辺 1:41.314
- 5 祐誠高校 西田・島添・白水 1:41.236
- 6 松山聖陵 宮内・岡田・横内 1:41.456

4km団体追抜競走

- 1 岐南工高 岩瀬・丹羽・吉田・森太 4:30.135
- 2 榛生昇陽 野口・元砂・安原・山本 4:31.214
- 3 日出暘谷 清水・六角・黒枝・一丸 4:33.372
- 4 岡山工高 重末・中村・田辺・大嶋 4:34.790
- 5 横浜高校 佐々木・出澤・平井・福本 4:38.157
- 6 別府商高 上田・吉岡・田北・染矢 4:38.457

個人ロードレース (104km)

- 1 黒枝 士揮 大分 日出暘谷高 3:00:31
- 2 野口 正則 奈良 榛生昇陽高 3:00:31
- 3 大中 巧基 京都 北桑田高校 3:00:31
- 4 西沢 倭義 京都 北桑田高校 3:00:31
- 5 新井 翔太 埼玉 川越工業高 3:00:31
- 6 清水 峻 大分 日出暘谷高 3:00:31
- 7 小黒 祐也 新潟 吉田高校 3:00:31
- 8 安達 康将 福島 平工業高校 3:00:31
- 9 佐々木 康 宮城 古川学園 3:00:31
- 10 高宮 正嗣 北海道 北海高校 3:00:31

総合成績

- | | | |
|----------|----|-----|
| 1 榛生昇陽高校 | 奈良 | 44点 |
| 2 岐南工業高校 | 岐阜 | 29点 |
| 3 北桑田高校 | 京都 | 24点 |

第39回全日本実業団東日本自転車競技大会 (2008/8/9-10 福島・泉崎)

男子スプリント

- 1 屋良 朝春 チームフェアロ
- 2 雨谷 一樹 栃木クラブ
- 3 河村 雅章 スーパー-Kアスリートホ
- 4 朝倉 佳弘 スーパー-Kアスリートホ
- 5 近藤 寛央 スーパー-Kアスリートホ
- 6 駒井 大輔 パールイーストミスタラ

男子1kmタイムトライアル

- 1 屋良 朝春 チームフェアロ 1:09.047
- 2 駒井 大輔 パールイーストミスタ 1:09.895

- 3 大村 慶二 デュプロ 1:09.980
- 4 小峰 烈 B-SOUL 1:10.004
- 5 水澤 耕一 スーパー-Kアスリート 1:10.365
- 6 鈴木 庸之 Soul Bicycle 1:10.616

男子ケリソ

- 1 小峰 烈 B-SOUL
- 2 柿澤 大貴 B-SOUL
- 3 近藤 寛央 スーパー-Kアスリートホ
- 4 福富 義雄 リアルタスTOCHIGI
- 5 水澤 耕一 スーパー-Kアスリートホ
- 6 大村 慶二 デュプロ

男子4km個人追抜競走

- 1 西谷 泰治 愛三工業レーシング 4:35.866
- 2 盛 一大 愛三工業レーシング 4:48.818
- 3 綾部 勇成 愛三工業レーシング 4:52.367
- 4 嵐田 義明 プリヂェストーンカー 4:55.708
- 5 普久原 奨 プリヂェストーンカー 4:57.002
- 6 鈴木 謙一 愛三工業レーシング 4:59.359

男子リミテイション

- 1 柿澤 大貴 B-SOUL
- 2 山本 雅道 チームプリヂェストーンカー
- 3 糸賀 賢司 チームフェアロ
- 4 幅 信康 B-SOUL
- 5 伊藤 陸 B-SOUL
- 6 若杉 平雄 チームフェアロ

男子ポイントレース (30km)

- 1 嵐田 義明 チームプリヂェストーンカー 29p
- 2 根本 哲吏 LABRUMAN 29p
- 3 西谷 泰治 愛三工業レーシング チーム 12p
- 4 鈴木 謙一 愛三工業レーシング チーム -1p
- 5 普久原 奨 チームプリヂェストーンカー -2p
- 6 秋山 英也 愛三工業レーシング チーム -11p

男子チームスプリント

- 1 栃木クラブ 雨谷・磯田・長島 1:05.493
- 2 愛三工業 綾部・西谷・盛 1:06.608
- 3 Labruman 大木・大越・根本 1:08.679
- 4 湘南愛輪会 田沼・植木・羽鳥 1:13.025
- 5 スーパー-K 近藤・古川・水澤 1:07.760
- 6 リアルタス 坂寄・高塩・福富 1:08.681

男子団体追抜競走

- 1 愛三工業A 綾部・鈴木・西谷・盛 4:28.594
- 2 チームフェアロ 圓谷・糸賀・河上・屋良 4:43.011
- 3 BSアーカー 嵐田・福田・普久原・山本 4:44.805
- 4 愛三工業B 秋山・品川・鈴木・別府 4:46.028
- 5 デュプロ 善波・山崎・阿部・大村 4:54.389
- 6 B-SOUL 伊藤・岡林・寺澤・幅 4:55.993

女子500mタイムトライアル

- 1 和地 恵美 たかだフレンド 39.697
- 2 石井 寛子 スーパー-Kアスリートホ 39.727
- 3 濱田 真子 湘南愛輪会 40.820
- 4 小野田祐子 ミソノレーシング チーム 45.392

女子3km個人追抜競走

- 1 石井 寛子 スーパー-Kアスリート 4:07.979
- 2 濱田 真子 湘南愛輪会 4:19.677
- 3 和地 恵美 たかだフレンド 4:27.060
- 4 小野田祐子 ミソノレーシング チーム 5:00.328

第25回沢/鈴鹿国際ロードレース大会 (2008/8/31 三重・鈴鹿ケヤキ)

個人ロードレース (58.21km)

- 1 盛 一大 愛知 AISAN 1:15:38.17
- 2 涌本 正樹 大阪 マトリックス 1:15:38.41

- 3 Kenny van Hummel NED 1:15:38.42
- 4 山本 雅道 JPCA BSanchor1:15:38.70
- 5 辻 善光 大阪 マトリックス 1:15:38.79
- 6 Stefan Vreugdehil NED 1:15:38.81
- 7 野寺 秀徳 JPCA Shimano1:15:38.88
- 8 品川 真寛 京都 AISAN 1:15:38.90
- 9 藤岡 徹也 兵庫 Colnago 1:15:38.92
- 10 三船 雅彦 JPCA マトリックス 1:15:39.22



ツール・ド・ラビティビ2008
ネイションズカップ2008
日本代表選手団

大会名 ツール・ド・ラビティビ2008
ネイションズカップ・ラビティビ2008
開催場所 カナダ・ケベック州
大会期間 2008年7月25日~29日
ツール・ド・ラビティビ2008
2008年7月31日~8月3日
ネイションズカップ・ラビティビ2008
派遣期間 2008年7月22日~8月6日
代表選手団
監督 折本 裕樹
(JCFジュニア強化育成部会部会員)
メカニック 色川 浩樹 (JCF強化スタッフ)
マッサー 森川健一郎 (JCF強化スタッフ)
選手 早川 朋宏 (愛知・法政大学)
笠原 恭輔 (茨城・江戸川学園取手高)
椿 大志 (東京・キャノピーユニバーシティ)
粟野 智也 (岐阜・岐阜第一高校)
畑段 嵐土 (京都・北桑田高校)
藤岡 克磨 (徳島・徳島工業高校)

GPリニューブリランド日本代表選手団

大会名 GPリニューブリランド
開催場所 スイス・アールガウ州ハプスブルグ
大会期間 2008年8月29日~31日
派遣期間 2008年8月26日~9月2日
代表選手団
監督 三浦 恭資 (JCF強化コーチ)
メカニック 大野 直志
(JCFジュニア強化育成部会支援スタッフ)
マッサー 宮島 正典 (JCF強化スタッフ)
総務 伊藤栄一郎
(JCFジュニア強化育成部会支援スタッフ)
選手 笠原 恭輔 (茨城・江戸川学園取手高)
平井 栄一 (神奈川・横浜高校)
大中 巧基 (京都・北桑田高校)
野口 正則 (奈良・榛生昇陽高校)
元砂 勇雪 (奈良・榛生昇陽高校)
清水 峻 (大分・日出暘谷高校)

北京五輪代表選手団 帰国報告会兼祝賀会

銅メダリスト永井選手のあいさつ



9月3日、東京・文京区の東京ドームホテル「天空」において、北京オリンピックの日本代表選手団の帰国報告会ならびに祝賀会が開催された。

当日は海外レース転戦中の選手を除く15名の選手団が出席、500名の来場者の前で報告がなされ、多くの祝福を受けた。



日体協 森会長のあいさつ



連盟の動き (7月中旬～9月上旬)

7月22日	ツール・ド・ラビティビ、ネイションズカップ代表選手団出発	於:カナダ	帰国→8/6
25日	平成20年度第4回強化委員会	於:東京・日本自転車会館3号館4階	
30日	北京オリンピック・パラリンピック代表選手団社行会 平成20年度第2回常務理事会	於:東京・東京ドームホテル	
8月5日	北京オリンピック・ロード代表選手団出発	於:中国・北京	帰国→8/14
10日	北京オリンピック・トラック代表選手団出発	於:中国・北京	帰国→8/20
16日	北京オリンピック・BMX代表選手団出発	於:中国・北京	帰国→8/22
18日	北京オリンピック・マウンテンバイク代表選手団出発	於:中国・北京	帰国→8/25
26日	GPリュージュリランド代表選手団出発	於:スイス	帰国→9/2
9月3日	北京オリンピック代表選手団帰国報告会兼祝賀会	於:東京・東京ドームホテル	

< JCF オフィシャル・スポンサー >



< JCF オフィシャル・サプライヤー >



シクリスムエコー No.151 2008年8月号

発行/財団法人日本自転車競技連盟

発行人/岩楯昭一

編集人/加藤 昭

編集事務局/財団法人日本自転車競技連盟事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂 1-9-3 日本自転車会館内

TEL03-3582-3713 FAX03-5561-0508 <http://www.jcf.or.jp/>